

パブリックアートやアートプロジェクトの研究

緑環境景観マネジメント研究科 竹田 直樹

キーワード

アート、アートプロジェクト、パブリックアート

研究概要

1960年代から始まるパブリックアートは、主として地方公共団体により、設置事業が推進されました。都市環境の整備や文化振興などを目的としていましたが、冷戦期にあつて、その本質的な目的は、作家によって自由に制作されたアートを顕彰することにより、自由主義を賛美する性質をもっていました。そのため、1990年代に入り、ソビエト連邦が崩壊し冷戦が終結すると、地方公共団体による設置事業は急激に終焉してしまいます。しかし、企業などによる設置事業は現在も継続して実施されており、その目的な、企業イメージの向上やブランディングなどにあると思われます。

1990年代から始まるアートプロジェクトは、地方公共団体や企業など様々な主体により、地域再生や文化振興などを目的に、現在も盛んに推進されています。新潟県の「大地の芸術祭」は60万人、「瀬戸内国際芸術祭」は90万人程度の集客を果たしており、過疎化の進む地域では、アートプロジェクトのもたらす経済波及効果に大きな興味もたれるようになっていきます。

アピールポイント

2000年に完成した、さいたま新都心のパブリックアートプロジェクトでは、アートディレクターを務めました。また、「パブリックアート入門」「日本のパブリックアート」など多数の著書があります。これに関連し、現在、パブリックアートのデータベースの構築をしています。アートプロジェクトについては、美術手帖、ソコトなどの雑誌で、数多くの連載を行いました。

応用分野

彫刻やインスタレーションなどに関わる造形教育に有用なデータを数多く所有しています。また、ランドスケープデザインにおいて、アートの知識は不可欠であり、様々な応用が試みられています。